

熱戦を繰り広げる児童ら  
幸田町荻のとぼね運動場で



20-0922

## 福祉施設の児童ら熱戦

### 幸田でソフト交流大会

県内の児童養護施設、児童心理治療施設に入所する子どもたちによる「県児童福祉施設入所児童ソフトボール交流大会」（中日新聞社など共催）が21日、幸田町荻のとぼね運動場であった。8施設の9チームに小中高生ら計164人が参加し、親睦を深めた。

新型コロナウイルスの影響で例年8月に開催している大会が中止となり、日ごろの練習の成果を発揮する場として代替開催。1チーム2試合までとし、計11試合を開催。ハイタッチなどの接触を禁止し、声援の代わりに拍手で応援するなど感染予防も徹底した。

赤羽根学園（田原市）の小学5年高松悠輝君（10）は投手を務め「練習試合もやってきたけど、2試合とも負けてしまった。でも、楽しかった。次は頑張りたい」と振り返った。（福沢和義）

笑った

泣いた

思い出